慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	はしがき
Sub Title	
Author	伊東, 研祐(Ito, Kensuke)
Publisher	慶應義塾大学大学院法務研究科
Publication year	2011
Jtitle	慶應法学 (Keio law journal). No.19 (2011. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	豊泉貫太郎教授, マキロイロバート教授, 退職記念号 = Essays Commemorating the Retirement of PROFESSOR TOYOIZUMI KANTARO, PROFESSOR ROBERT MCILROY Presented by Their Colleagues and Former Students
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1203413X-20110325--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

はしがき

本年度末を以て、豊泉貫太郎先生とロバート・マキロイ先生のお二人が、退職される。大局的に見て合理性あるルールに従う以上は仕方のないことではあるが、御一緒した法務研究科創設時から７年の特段の出来事の多かった期間を顧みると、例外が許されても良いのではないか、と思うこと頻りである。至らなかった点の数々をお詫びし、深く感謝申し上げると共に、今後とも慶應義塾大学大学院法務研究科（法科大学院）の発展を見守って下さるよう、お願いする次第である。

豊泉貫太郎先生は、法科大学院設置準備室のメンバーとして、初代法務研究科副委員長として、そして、第二代法務研究科委員長として、一貫して本研究科における先導的立場を占めて来られた。もとより、昭和47年（1972年）に遡ると伺う法学部における演習の御担当や法学部と三田法曹会との協調役としての御活動とを通して、長年に亘り、多大な御貢献を戴いてきていたことは揺るぎのない事実であるが、その正に法曹的な危機管理能力なくしては、本研究科が現在の軌道上に留まって居ることはできなかったであろうし、その進取の気性なくしては、本研究科の現在のファカルティーも無かったであろう。慶應義塾を心から愛し、その精神を体現される豊泉先生の存在を再確認させて戴く機会として、豊泉先生の御退職を前向きに記念させて戴きたい。

ロバート・マキロイ先生は、本研究科の創設時からの研究者教員として、国際性・学際性・先端性という本研究科のキー・コンセプトを実現すべく御活躍下さった。同僚教員としては恐るべき、完璧な準備に裏付けられたWTO法等はもちろん、会計学上の学識経験に基づかれて展開されたForensic Accounting

のような我が国における次世代の学問は、マキロイ先生ならばこそのものであったが、カリキュラムを構成し、サポートする側の視座の旧態依然さ、学ぶ側の能力不足を痛感させられるものでもあった。超モダンな調度のオフィスにおいて、先生のファッションを含め、古武士にも通じるダンディズムに触れることのできた者が、真に新しい伝統に基づいたロースクール文化を作り始める必要を感じさせて戴ける機会として、マキロイ先生の御退職を深く記念させて戴きたい。

豊泉貫太郎先生とロバート・マキロイ先生のお二人の御退職を記念して、
ここに「慶應法学」第19号を献呈する。

法務研究科委員長
伊　東　研　祐